

# その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.139

## a taste of Ya'ssy

### 田中 康夫



たなかやすお ● 56年東京生まれ、作家。'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。'09年に衆議院議員に当選、1期務める。「文藝」(河出書房新社)2013年冬季号から17年ぶりに小説の連載を開始。【公式ブログ】<http://www.nippon-dream.com/>



## “地頭”で看破すべき 拉致問題の深意

### 今週の逸品



### おかだの逸品・柳葉魚(ししゃも)

青山通りから一方通行路へ入った右側。気が付かず通り過ぎる程に傾まじやかな佇まい。店内の明度も暗い「おかだ」は正しく隠れ家。が、「隠れ家」を標榜するも阿諛迎合する凡百の空間とは異なる。主亡き後も伴侶

が健気に営む。惜しむらくは品書きに価格が記されておらず、1人1万円強の心積もりで見繕う動性が食べ手に求められる。牛イチボ肉の炭焼きが定評だが、芋茎や浜防風等のお浸しを始め、秀逸な酒の肴が並ぶ。

【おかだ】東京都港区南青山3-7-2 ☎03-3401-7688  
営業18:00~23:00 土日祭定休 要予約

illustration by Hajime Anzai



「殺人」「戦争」と並んで「拉致」は、詰責すべき蛮行です。英国の軍事専門誌「シエーンズ・ディフェンス・ウィークリー」東京特派員・高橋浩祐氏は「北朝鮮『拉致被害者再調査』の茶番 日本メディアの報道から抜け落ちていくこと」と題し、「東洋経済オンライン」に寄稿しました。

「北朝鮮は今回、日本側に対し、拉致被害者の再調査の実施を約束したが、本来、北朝鮮が拉致被害者を捜したり、生存を確認したりするのに調査など必要ない。何故なら、北朝鮮は既に日本人拉致被害者の居所なり状況を把握している筈だからだ。北朝鮮は日本と違い、移動の自由が制限されている。……閉鎖的で流動性の少ない社会の中で、日本人が居れば容易に気付かれてしまうものだ。」

遡って10年前、当時の小泉純一郎首相が再訪朝した翌日2004年5月22日付「日本経済新聞」は以下の発言を報じています。「誰が考えても茶番で、直ちに取っ下げるべきだ。拉致をしたのは彼らで、行方を知っている。知らないふりをして一緒に調査するというのは、時間延ばし以外の何物でもない。拉致問題は金総書記がすべてを話せば一秒で解決する話だ。発言の主は現在の安倍晋三首相でした。」

今回の「包括的かつ全面的な再調査」を前提に経済制裁緩和の方向性を5月29日に日本政府が示した数時間後、米国下院の外交委員会は、核開発に対する既存の制裁に加えて資金洗浄と人権侵害に関する更なる経済制裁を強化する法案を可決します。

更に、調査期間が「1年を超えてることはないだろう」と菅義偉官房長官が30日の会見で述べた約2時間後、北朝鮮の宋日昊・朝日国交正常化交渉担当大使はストックホルムから帰国途中の北京空港で、在日本朝鮮人総連合会朝鮮総連中央本部の売却問題が今回の日朝合意に含まれているとの認識を示しました。

「総連本部 移転先に政府機関も検討 マルナカ」の見出しを掲げ5月18日に「産経新聞」が最早早く報じた以下の深意も、我々は「地頭」で看破すべきでしょう。

「総連側が立ち退きに難色を示すなど今後トラブルが発生すれば『売却先の目途が立たない事態もある』(公安筋)」「情勢も踏まえ、マルナカは総連本部が日朝協議や拉致問題の外交交渉において重要な役割を果たすことなども考慮し、政府機関や公的機関への売却も視野に入れることにした。」政府から「人命や国益のため」と言われれば、商売だけを考えるわけにはいかない。「政府は司法に介入できないが、マルナカに所有権が移れば、一般の商取引を通じて関与することは可能だ。」

「覇道の誘惑を排し、王道の気概を抱き続ける」肝要さを述べた前々回の拙稿を想起しました。南青山の「おかだ」も、覇道とは対極の、慎まじやかな気概に満ちた日本料理の密やかな時空です。